Topics

先輩から後輩へ SNSを活用した支援の輪

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、高校生の皆さんも将来の大学生活や就職活動に不安を感じているかもしれません。長崎大学では学生を対象とするさまざまな支援制度を設けていますが、その中には学生が主体的に取り組んでいるものもあります。SNSを活用した支援に取り組む2つの団体を紹介します。

全学サークル連合

一年生とサークルをつなぐ 架け橋になるために

部室管理やイベントの企画・運営など、サークル活動をサポートするのが全学サークル連合です。今年三月に開設したツイッター「#春から長大（令和二年度用！）」では、履修登録に関するアドバイスや大学生協の使い方など、一年生向けの情報を発信。開設から二カ月足らずでフォロワー数五〇〇、七月に入ころには七七〇まで増えたのだそうです。代表を務める足立尽さん（教育学部三年）とツイッター更新担当の磯口蒼太さん（環境科学部四年）のお話です。

「ツイッターを開設した目的は、四月に予定されていた新歓祭のPRでしたが、延期が決まり、一年生の不安や悩みを解決するための発信に切り替えました」。それはなぜですか。「ツイッターを見ていると、大学生活の不安や履修登録に関する疑問・質問が多く見られたからです。例年だと、サークルに入って先輩から情報をもらったり、悩みを友人と共有したりできますが、今年はそれが難しかった。これまで発信した二〇〇から三〇〇のツイートのほとんどが、質問箱やDMに届いた相談への回答です。さまざまな質問が寄せられる中で、こんなことを疑問に感じたり悩んだりしているんだなと感じました」。

発信力がある分、活動にも力が入りますね。「はい。ツイッター上でこれから大学生活を送る上で何をやってみたいかアンケートを行ったら、一番票が多かったのがサークルでした。それとは別に、各サークルにもアンケートを実施したのですが、七割ほどの団体から例年より一年生の人数が少ないという回答があり、新歓祭を開催してほしいという要望も多数ありました。一年生とサークルをつなぐ、最初の接点とも言えるイベントが新歓祭です。私たちもイベントをより良いものにするために、このサークルに参加しましたが、今年の開催は難しいかもしれません。代わりにツイッターを通じてサークル情報を発信していきます。サークル活動の充実が大学生活の価値向上にもつながるように、懸け橋になれればと思っています」。

素朴な質問からサークル情報まで、気軽に相談できる相手。それが身近な先輩であり、SNSというツールでもあるのですね。

今年2月、「きれいになった部室で新入生を迎えよう」と全学サークル連合が企画した部室掃除。各サークルからたくさんの参加がありました。

大学が始まったら何をしたいか、1年生を対象にツイッターでアンケートを行いました。

困っていることや疑問があったら、ツイッターで気軽に質問してください。

全学サークル連合代表の足立さん（左）、ツイッター更新担当の磯口さん。

長崎大学ピア・サポート ふらっぴあb

経験を生かして 高校生にもQ&Aを発信！

現役大学生によるボランティア団体「長崎大学ピア・サポートふらっぴあb」は、学生支援センター内にあるピアルームで学生の相談に対応。オープンキャンパスでは高校生の案内係も務めています。

大学では、ボランティア団体に所属したいと考えていた代表の釘宮里奈さん（環境科学部三年）。「オリエンテーションで手にしたふらっぴあbの新入生冊子を見て、学生（人）の支援を行っていることに魅力を感じました。私も誰かを助けたいと強く思い、ふらっぴあbに参加しました」と話します。今年は例年のような活動ができずにいるそうです。

「自宅待機中はツイッターの質問箱やDMに寄せられる相談に答えていました。やる気が出ないけれどどうしたらいいのか、家にこもりがちで気分が下がるなど、去年まではなかった悩みが寄せられることもありました」。回答する際には、どのようなことを心掛けていますか。

「まず悩みを否定せずに受け止め、無責任な回答をしないように心掛けています。私たちは解決策の一つを、あくまで提案する立場。相談内容によっては対応が難しい場合もあるので、希望があれば大学内の専門部署を案内します。相談してくれた方の気持ちが少しでも和らぐようにと思っています」。

新入生からは、オンライン上での課題提出について相談があったそうですね。

「はい。課題がきちんと提出できているのかの確認として、パソコン画面をスクリーンショットで送ってきてくれる人もいました。一年生の場合、専用システムを使うこと自体初めてで慣れていません。どの部署に聞けばいいのか分からない、そんな一年生もいたと思います。私も入学当初は同じ高校出身者がいなくて、大学でできた友人のおかげで疑問を解決でき、寂しさも和らいだ経験があります。ゼロから一人で取り組むとなると、不安だろうなと思います」。

実情を知った釘宮さんとメンバーは、六月初旬にふらっぴあb主催の学生相談会を企画。残念ながら実現には至りませんでしたが、オープンキャンパスの代替となる取り組みをスタートさせるなど意欲的です。

「高校生向けにツイッター上でのQ&Aの発信を始めました。私たちが高校生だった頃、どんなことを知りたかったのか、ひとまず質問と回答を皆で話し合い、七月から発信しています。発信が終わった後も読み返しができますので、ぜひ高校生の皆さんにフォローしてもらいたいですね。質問も受け付けています」。

今後は、後期の履修登録相談会と新入生向け冊子の制作に取り組むふらっぴあb。一年生だけでなく、未来の大学生にとっても心強い存在です。

新入生に配布する冊子です。最新版の制作が始まります！

ふらっぴあbの皆さん。打ち合わせにグループLINEを活用するなど工夫しつつ活動中。

ふらっぴあb代表の釘宮さん。

高校生向けに発信中のQ&A。受験期間中のモチベーションの高め方など、バラエティに富んでいます。

キャリアセンター

オンラインを活用した就職・キャリア支援

コロナ禍の影響で一時的にオンラインのみで実施していたキャリア相談。現在では対面による相談も再開され、利用の選択肢が広がりました。それにより何が変わったのか、キャリアセンターのアドバイザーにお話を聞きました。

「対面と遜色なく相談を受けられるように、オンライン相談の仕組みを構築しました。昨今、企業の採用活動のオンライン化も一般的になりつつあるので、例えばウェブ形式の面接などに慣れておくために、オンライン相談で事前練習をしておきたいという学生もいます。また、オンラインサービスをうまく活用すれば、地方が抱える地理的な格差を超えることができます。従来は首都圏など遠方にしかなかったチャンスを得やすくなったのは、就職活動をする上でのメリットです。ぜひ活用してほしいですし、私たちもしっかりサポートします」。

キャリアセンターでは、引き続きオンラインサービスの拡充を検討しているほか、就職活動やキャリア開発に役立つ動画も不定期で配信中。今後のコンテンツの充実にも期待してください。

エントリーシートの添削などもウェブ上で行います。

アドバイザーによるオンライン相談の様子。